

筑波大学の運動部活動

3年前、茨城県へ行ったとき、筑波大学へ寄った。

バドミントン部の練習を見学しようと思い、体育館へ向かった。

庶務の部員が監督の教員の所へ案内してくれ、見学の許可を得て、ベンチで練習を見せてもらった。

さすが、伝統校の部活動と選手、そして競技を専門としている教員が監督であり、科学的な研究成果を根拠とした練習をしていた。

監督に、「多くが体育を専攻している部員ですか」と聞いたら、医学、理学、教育様々な専攻で、実績がある選手とともに初心者もいるとのことであった。

さて、練習内容もさることながら、驚きというか感動することがあった。

それは、ハンディキャップを持つ部員、特別支援教育という肢体不自由の部員も同様に練習していることであった。

もちろんみんな同じように練習することはできないが、できることをそれぞれ行っている。

体育館の隅には、さまざまなトレーニングマシンもおいてあり、それぞれの部員が監督の指示のもと個別にトレーニングを行っていた。

ミーティングや指示があるときは、集合して監督の話を聞く。

頭の隅に、筑波の歴史ある特別支援教育、高度な実績や研究体制が思い出された。

予定の時間が来たので、監督と部員にお礼を言って体育館を出た。

キャンパス内を歩いていたら、特別支援の研究棟があった。たくさんの人たちがいたが、様々なハンディキャップがある人たちが多くいた。誰が学生かわからないが、活気があり、エネルギーを感じた。

さすが東京高等師範学校と思った。

普段、障がい者とか特別支援が必要な学生とか意識してしまうが、キャンパス内はそんな雰囲気を感じず、自然とみんな一緒にいるのです。

こんな感覚は初めて持ったし、今後大切にしていきたいと思った。

バドミントン部の見学に行った中で、貴重な経験、学びを持つことができた半日であった。